初代院長遠山参良と九州学院

院長宅書斎にて

院長宅書斎にて。

松韻漁荘（葦北郡田浦）で夏季休養中の遠山院長と夫人

遠山夫妻は、毎夏「松韻漁荘」（熊本県葦北郡田浦）へ避暑休養に訪れていました。「松韻漁荘」は藤崎彌熊（公民科教師、第五回卒）が、故郷・藤崎家の別荘を遠山院長に提供していたものです。

院長宅から学院講堂（ブラウン記念礼拝堂）へ葬送

1932（昭和7）年10月9日召天、10月11日学院葬

1932（昭和7）年9月16日、遠山院長は執務中に院長室にて倒れ、10月9日午前8時37分に召天されました。享年67歳。10月11日午後3時より遠山院長の学院葬が学院講堂（ブラウン・メモリアル・チャペル）の霊柩式場で挙行されました。

学院講堂（ブラウン記念礼拝堂）での告別式

告別式を学院講堂（ブラウン記念礼拝堂）で挙行。ご遺骨は、10月12日午前11時、熊本駅発の列車で郷里八代郡鏡町（現八代市）へ向かい、遠山家の墓地に埋葬されました。

遠山参良先生のご遺影

遠山参良院長の遺影。

故遠山院長召天記念追悼会

1932（昭和7）年12月9日東京基督教青年会館で開催

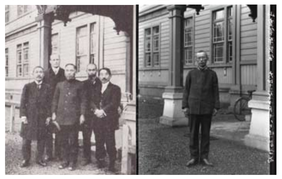
1932（昭和7）年12月9日、故遠山院長召天記念追悼会を東京基督教青年会館で開催。発起人には、伯爵内田康哉（当時斎藤内閣外務大臣）、後藤文夫（当時斎藤内閣農林大臣）、江口定條（三菱総理事、南満鉄副総裁）、岡田松生（熊本洋学校第三回生、海軍省・農総務省）、高橋守男（第七代熊本市長、後警視総監）、齋藤聖一（日本YMCA同盟総主事）等が名を連ねました。

文学博士正装の遠山参良院長

一九一三（大正十二）年十二月二十二日五十七歳

文学博士正装姿の遠山参良院長。同年1月17日には、熊本県教育会より顕彰され、記念品が授与されました。

遠山参良院長と金森通倫　山室軍平（大正13年10月18日）



金森通倫（かなもりみちとも）、山室軍平（1924年・大正13年10月18日）と九州学院本館玄関前にて。

賀川豊彦（昭和3年10月3日）　山室軍平（昭和3年12月13日）

1928（昭和3）年10月には賀川豊彦、12月には山室軍平を九州学院に招いてキリスト教講演会が開催されました。

遠山参良院長と海老名弾正

1928（昭和3）年12月8日 九州学院構内にて

1928（昭和3）年12月8日、九州学院を訪れた海老名弾正と九州学院構内で。

五高花陵会新会館献堂式に参列

1932（昭和7）年4月30日

1932（昭和7）年3月、新しい花陵会館（五高キリスト者青年会館）が完成し、4月30日、遠山参良は新会館献堂式に参列しました。遠山院長は、第五高等学校教授就任以来、花陵会への指導・援助を中心となって精力的に行いました。

遠山院長と家族

1930（昭和5）年の新年か構内院長宅にて

遠山院長のご家族。前列左・うて夫人（渋谷うて、明治17年9月生まれ）、中央・遠山参良先生、右・長男不羈夫の香取夫人と初孫ヨシ子、後列右・長男不羈夫（明治31年3月10日生まれ）、左・次男賢治（明治43年1月19日生まれ）。前妻の田姓・田中無津（ムツ）夫人（明治3年9月1日生まれ）は、明治44年5月12日に召天したため、大正6年9月17日に旧姓・渋谷うてと夫人と再婚。

第2回聖書夏季学校（阿蘇湯の谷）

1922（大正11）年7月、第2回聖書夏季学校（阿蘇湯の谷）開催。校長・遠山参良、牧師・ホールン。

九州学院創設期の運動部

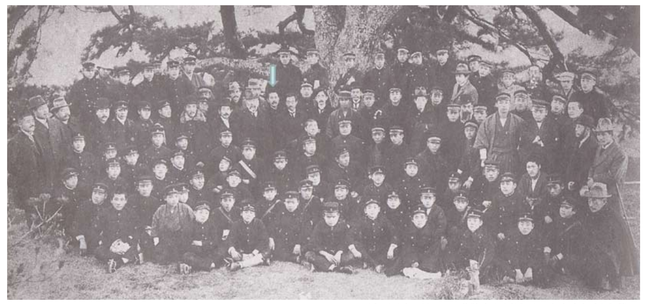
九州学院創設期の運動部。遠山院長はスポーツの部活動も奨励しました。後列左端・宇土虎雄（大正5年着任・陸上競技部創設）、右から2人目・遠山院長。前列左より、陸上競技部、庭球部、柔道部、野球部、剣道部。

「五高九学会」（九州学院卒業の五高生と）

遠山参良は九州学院長就任後も、1932（昭和7）年10月9日召天するまで、第五高等学校の英語嘱託講師を兼任していました。九州学院から五高に進学した学生と撮った写真です。

花陵会特別伝道記念写真

1915（大正4）年1月30日、「奉教記念会」の際、花岡山鐘懸松前で



1915（大正4）年1月29日、花陵会（五高キリスト者青年会）主催の「海老名弾正講演会」が、9時から九州学院で、15時から五高瑞邦館で、19時から県会議事堂で行われました。30日には、花岡山の「奉教記念会」で海老名弾正による奨励が行われた際に、鐘懸松前で撮った写真。

（↓）・遠山参良、左隣・海老名弾正、右隣・荒川文六、松幹中央のカンカン帽・石松量蔵（全盲の熊本教会牧師）、石松の右4人目ソフト帽・福田令寿、後ろから2列目の左から3人目・大島虎毅、2人目・申津親義、右端最前列・齊藤惣一（後・日本YMCA同盟総主事）。前列には九州学院の生徒たちが並んでいる。

遠山参良院長と九州学院教職員

1920（大正9）年、水前寺公園にて

1920（大正9）年、九州学院教職員と水前寺公園にて。

遠山参良 文学博士学位伝達式挙行

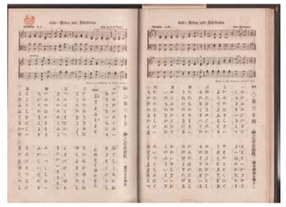
1923（大正12）年12月21日

1923（大正12）年6月、遠山参良院長はペンシルバニア州ミューレンバーグ大学から文学博士（Doctor of Letters）の学位を受領。12月21日に学位伝達式が学院内で挙行されました。

遠山院長愛用の聖書

遠山院長は、英語の聖書の他に、漢文の「舊新約聖書」を愛用していました。

遠山院長愛用の「基督教聖歌集」（メソジスト出版舎）



遠山院長が愛用していた「基督教聖歌集」（メソジスト出版舎）。左上に（参遠）の印が押してあります。

遠山先生蔵書の内村鑑三『求安録』（左・手製カバー）

遠山院長愛読の内村鑑三『求安録』（1893年・明治26年8月刊行）。遠山院長手製の紙カバーが付けられている。

第五高等学校図書閲覧室

「敬天愛人」の額が掲げられている

「剛毅木訥」の気風を謳歌していた第五高等学校の図書閲覧室にも、「敬天愛人」の額が掲げられていました。

熊本メソジスト三年坂教会員の遠山参良

教会員（1910年前後）

1910（明治43）年前後の三年坂教会員（熊本メソジスト教会）。メソジスト教会の信徒であった遠山参良（最後列右から2人目）は、ブラウンと協力してキリスト教の宣教のため、ルーテル教会の伝道活動にも熱心に取り組みました。

遠山参良の家族写真

五高教授時代の家族写真。夫人・無津（ムツ・明治30年結婚）、長男・不羈夫（ふきお・明治31年誕生）と。

九州学院教会週報（1928年6月3日・聖霊降臨主日）

報知會教院學州九

遠山先生愛用聖書の旧約篇と新約篇の間に挟まれていた「九州学院教会週報」（昭和3年6月3日・聖霊降臨主日）。

遠山参良 九州学院長就任の頃

1910（明治43）年10月、遠山参良は「私立九州学院」創立に従事し、「路帆神学校」の講義も担当。1911（明治44）年3月18日、初代院長に就任（45歳）。ブラウンは主事に就任（37歳）し、二人三脚でキリスト教主義の学院づくりが始まりました。

遠山参良と第五高等学校

1900（明治33）年5月の第五高等学校教授陣と学生たちの写真です。中央の櫻井校長の右隣（←）が夏目金之助（漱石）教授で、そのすぐ背後（↓）に遠山参良教授が写っています。前から2列目左から2人目（↓）が奥太一郎（漱石の友人）です。奥も後に九州学院に赴任します。

初代院長遠山参良と九州学院

設立者C.L.ブラウンとともに九州学院の礎を築いたのが、初代院長遠山参良でした。
常に「自分で自分を監督し、役に立つ善人たれ」と学院生を訓育されました。

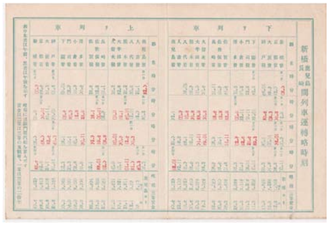
米国留学の頃

遠山　参良

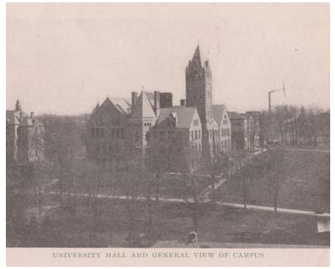
1866（慶応2）年1月13日～1932（昭和7）年10月9日

遠山先生は、1866（慶応2）年1月13日八代市鏡町に生まれ、熊本バンドを創ったジェーンズの「熊本洋学校」（私立古城洋学校）第五回生で、熊本バンドの俊英たちに倣って、明治9年9月「私立同志社」に入学。その後、熊本県私立広取学校、鏡私立学校を経て、長崎県私立カブリ学校（現・鎮西学院）を卒業。鎮西学館教師として４年勤めた後、アメリカ合衆国オハイオ・ウェスレヤン大学で学位を受領。帰国後は、再び鎮西学館教師として英語と生物学を担当し、活水高等女学校でも教えていました。

列車運転略時刻表・運賃表（明治43年）



遠山参良留学先、北米オハイオ・ウェスレヤン大学



UNIVERSITY HALL AND GENERAL VIEW OF CAMPUS

1892（明治25）年4月、遠山参良は鎮西学館教師を辞し、米国オハイオ州のウェスレヤン大学に留学するため渡米。5年間の留学を終え、1897（明治30）年10月、帰国すると鎮西学館教師に再就任。翌明治31年9月からは、長崎活水女学校の生物学講師も兼任しました。

第五高等学校教授　遠山　参良

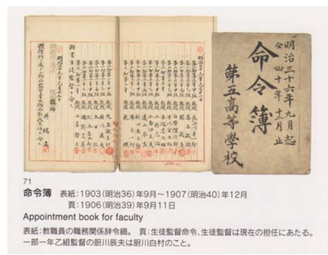
一八九九（明治三十二）年八月～一九一〇（明治四十三）年九月

一九〇〇（明治三十三）年一月二十二日、第五高等学校教授を拝命し、花陵会（五高キリスト者青年会）の中心的指導者として活動。龍南会の演説部部長も務めました。「命令簿」に明治三十九年九月十一日付けで、第一部第二年丙組　教授　遠山参良と記されています。

ブラウン宣教師と遠山参良先生の出会い

- 1899(明治32)年7月、第五高等学校英語科講師招聘の件で夏目金之助（漱石）教授と面会して長崎へ佛逸中の遠山参良と、佐賀から乗り合わせ長崎へ向かったブラウン宣教師が列車内で遭遇。
- 遠山参良、鎮西学館及び活水女学校を辞し、8月7日（月）、第五高等学校英語科講師嘱託として赴任。
- 1900(明治33)年1月22日（月）、第五高等学校教授を拝命。2月11日花陵会主催演説会で講話（三年坂教会）。
- 遠山参良、9月4日、漱石の後任として、大学予科英語科主任拝命。
- ブラウン、第五高等学校英語講師（聖公会宣教師ブランドラムの後任）就任。1901(明治34)年1月～1906(明治39)年4月

1899（明治32）年7月、ブラウン宣教師と後に初代院長となる遠山参良は、運命的な出会いをしました。同年8月7日、遠山参良は第五高等学校英語科講師として赴任。花陵会（五高キリスト者青年会）の指導も熱心に行いました。ブラウンも、遠山の紹介で五高英語講師を5年間勤めました。



71
命令簿　表紙：1903（明治36）年9月～1907（明治40）年12月
真：1906（明治39）年9月11日
Appointment book for faculty
表紙：教職員の職務関係辞令簿。　真：生徒監督命令、生徒監督は現在の担任にあたる。
一部一年乙組監督の郡川眼夫は郡川白村のこと。

遠山参良履歴書（第五高等学校）

第五高等学校の「遠山参良履歴書」（五高記念館所蔵）。本名は「とおやまさぶろう」だが、「トウヤマサンロウ」と記されている。

九州鉄道線路案内

（明治43年3月30日・九州鉄道管理局営業課、遠山蔵書）

遠山先生が使っておられた明治時代末の「九州鉄道線路案内」。遠山参良先生蔵書道本の「世界地図」（HAMOND'S MODERN ATLAS of THE WORLD, NEW YORK, C.S.HAMOND&COMPANY, 1905）に挿まれていました。